

奈文研

ニュース

No.42

sep.2011

NABUNKEN NEWS



独立行政法人 国立文化財機構
奈良文化財研究所
〒630-8577 奈良市二条町2丁目9-1
<http://www.nabunken.go.jp/>

東日本大震災と文化財レスキュー

3月11日に生じた東日本大震災では、津波の直撃により三陸地方から北関東にかけての沿岸部で多数の犠牲者を出しました。更に、福島第一原発で深刻な放射能事故が生じ、現在も未だ収束の目処がついていません。私たちは震災の直後から、深刻な津波被害や、原発事故の推移をニュースで見守るしかなく、文化財の被害については、ほとんど情報が無いままでした。震災からほぼ1ヶ月が経過した4月15日、文化庁の要請によって全国の文化財関係等、18機関の代表が東京文化財研究所に集まり、文化財レスキュー（救援）の実施が決定されました。

具体的な活動は、宮城県からの要請によって、4月19日に仙台市博物館に現地本部を設置し、翌日から石巻文化センターを手始めに、県内の文化財関係機関とともに文化庁、東京文化財研究所、奈良文化財研究所が主体となって始まりました。私の最初の仙台行きは、JR線は不通、飛行機は満席で、ホテルも無く、やむなく寝袋を携えて大阪から仙台行きの夜行バスに乗り込むことになりました。

石巻文化センターは石巻湾に面して作られた大規模な複合文化施設で、縄文時代の沼津貝塚出土品を含む「毛利コレクション」が収蔵されていることで有名でした。私たちがセンターの建物に立ち入ってみると1階の天井まで津波の跡があり、館内の至る

所に、付近の製紙工場から流入した紙の原料や、ガラス扉を突き破って流されてきた乗用車、館内の大きなパネル類、スチール棚、展示されていた大きな民具等が積み重なり、歩くこともできない状態でした。レスキューの第一歩は、それらの流入物を人力で撤去することでした。幸いなことに頑丈なカギがかかった貴重品庫は、浸水もわずかで毛利コレクションも軽微な被害ですみました。前後して、美術品や、考古・民俗資料等の収蔵庫のレスキューも、5月中にはほぼ終わることができました。その間、他の国立文化財機構や民族博物館、その他の組織の職員も続々と参加し、レスキュー活動は順調に進みました。奈文研では現地での公用車の不足に対して、奈良から仙台まで職員がハンドルを握って8人乗りのワンボックス車を移送し、また、5月後半から7月末まで、毎週月曜日から金曜日まで、交代で常時、3、4人の職員を派遣して大きな戦力となりました。石巻文化センターと併行して、宮城県内各地の文化財収蔵施設、津波に遭った神社の神像や懸仏のレスキューも進めました。特に古文書類のレスキューは、民間の冷蔵会社の協力をいただき、カビや劣化の進行を防ぐためこれらを凍結させ、奈文研が中心となって、順次、真空凍結乾燥機で水分を除去する等応急処理にあたっています。

(埋蔵文化財センター 松井 章)



石巻文化センター



石巻文化センター内部